毎日歌壇

水原　紫苑　選

塊の雪が屋根から落ちるかのように記憶が私を壊す　横浜市　砂月　七

〈評〉記憶は人間を人間とする文化の土台である。だが一方で、記憶は残酷な破壊者でもある。

少女よ、もう憎悪の色が澄みきって真っ白なワンピース　春風　雲南市　熱田　俊月

〈評〉真っ白なワンピースのまぶしさには愛も憎しみもすべてが隠れている。

痛覚が遠のいている　降るはずの雪を見上げるわたくしの鳥　取手市　奥山いずみ

風が吹きやがてあなたは鳥となり飛行機になる時間にもなる　神戸市　入間しゅか

言い訳をしてほしかった水仙が雪に隠れて見えないうちは　松原市　たろりずむ

群れをなし光を征した白樺の湖に沈んでしまった淋しさ　フランス　小仲　翠太

百合や胡蝶蘭のような顔たちが過去へ取り込む棺の記憶　平塚市　芝澤　樹

鉄琴のにおいの風が吹き抜ける　夜とは無数の穴かもしれず　さいたま市　霧島あきら

春は春でしかないのに幾重にも乱反射する開花宣言　大津市　世田　夏雪

先生は心の底を見てないと言われてほのひかる冬の底　さいたま市　住谷　正浩

伊藤　一彦　選

遺影用写真に葬儀会場の希望を語る不思議な一日　札幌市　佐々木さと子

〈評〉葬儀用写真を自ら準備するのが普通の今だが、葬儀会場まで聞かれるとさすがに「不思議」。自分はもう死んだのかと。

夕月夜　証明写真機の椅子をわたしが誰かになるまで回す　東　京　碓井やすこ

〈評〉「わたしが誰かになるまで」が痛烈だ。椅子を「回す」の表現も生きている。

髪の毛を巣材と思いかじりつく錦華鳥に今日頭差しだす　相模原市　榎本　ハナ

午後のカフェ整えられたピンク色の爪に敗北感をつつかれて　山形市　新道百合子

ビスケット　食めばほろほろ星屑のようにこぼれてスカートは夜　狭山市　り　ん　か

古本のセロファン紙をはがすときわたしに揺れる前世の梢　国分寺市　青野　暦

機窓から眺める明かりの少なさを好きだと思う私のふるさと　宮　崎　門田　藍子

岡山弁嫁の前では隠してた十年たてば「あんた、頼むで」　倉敷市　中谷　眞理

ひとつだけタイムマシンで戻ったら子犬のおまえまた抱きしめる　福津市　原田　冬

口にするものから次々高騰し無口になって食むハムサンド　フランス　小仲　翠太

米川千嘉子　選

無期雇用になってしまうよ飲み切れぬ愚痴を手酌で済ませ続けて　四日市市　早川　和博

〈評〉派遣社員などの雇用の安定をはかる制度だが、十分ではない条件をのみ続ける将来を受け入れることでもあるか。

掌をあわす子供時分は葦の原水の難所と言われた八潮　横浜市　島田　和生

〈評〉道路陥没事故の衝撃。地下空間の複雑さ、水の威力、土地の歴史も知る。

ストーンが氷上にあり強い風にも動かずに白鳥たちだ　上越市　戸枝　誠

打ちあがるザトウクジラの子の死骸水平線の長き海岸　延岡市　河野　正

食卓へ電車ごっこで移動するいち・に・いち・にと母のリズムで　伊丹市　岡本　信子

マフィン焼きアールグレイを飲む男孫何とお洒落な調理実習　四日市市　坂倉　侶子

わが膝を今日より降りてご飯食ぶ子との小さな最初の別れ　吹田市　鈴木　基充

真昼間をまっぴるまって呼ぶきみの語彙の世界のあかるい野性　東　京　石川　真琴

呼び出しの「きらきら星」に励まされ伊奈ガンセンターロビーは吹き抜け　幸手市　中村　早苗

コンビニの弁当提げ来る夫を待つ病棟に響く革靴の音　千曲市　中村　美樹

加藤　治郎　選

人生のｉｆとなって消えていった期間限定ドーナツ、さよなら　東　京　境　千尋

〈評〉人生にはいっぱいｉｆがある。その一つが鮮やかに現れた。それを見届けた至福感がある。さわやかなさよならである。

滝へ行く、そう彼は告げわたくしは　喉が渇いていたのだと気づいた　宮古島市　塩見　佯

〈評〉夢のようだ。彼が滝へ行くのは私の喉の渇きを暗示していた。主体が重なる。

ユートピアにも永遠はなかったわ　晴れて風が　燃えた　匂いで　大津市　世田　夏雪

国道のフェンスに車ぶつけてもだれも立ち止まらない　海風　長崎市　六日野あやめ

吹雪いたね　つややかなこころで布団にもぐる　チュニジアに行ってみたいなあ　横浜市　大原　香花

改札の先金星輝く下が家　お豆腐買って早く帰ろう　横浜市　犀木よう子

雲南市・熱田一俊　三か所にある　雲南市・熱田一俊　雲南市　熱田　一俊

レントゲン〈だいぶこころが狭いけど　胃カメラ〉腹は黒くなかった　東　京　稲山　博司

しろがねの雪の都会を照らす月ああ滅亡の前でよかった　名古屋市　浅井　克宏

ゆっくりとおやすみ今は夜の底いつか孵化してあなたはひかる　西宮市　藤平　怜

お知らせ

4月から「詠む広場」で二つの新しい連載が始まります。

一つは短歌アプリ「57577」とコラボした「アプリで推し短歌」です。毎回お題を出し、アプリで寄せられた投稿からユーザー人気の高かった作品を歌人の天野慶さんが評をつけて紹介します。4月14日に掲載予定の初回のお題は「花」です。本日から投稿を受け付けます。

アプリはhttps://tanka.one/、または右のＱＲコードからダウンロードできます。

もう一つは俳人、星野高士さんの俳句時評コラム「調べの鼓動」です。どうぞご期待ください。

短歌アプリ「57577」はこちらから